

第一章: FXの仕組み

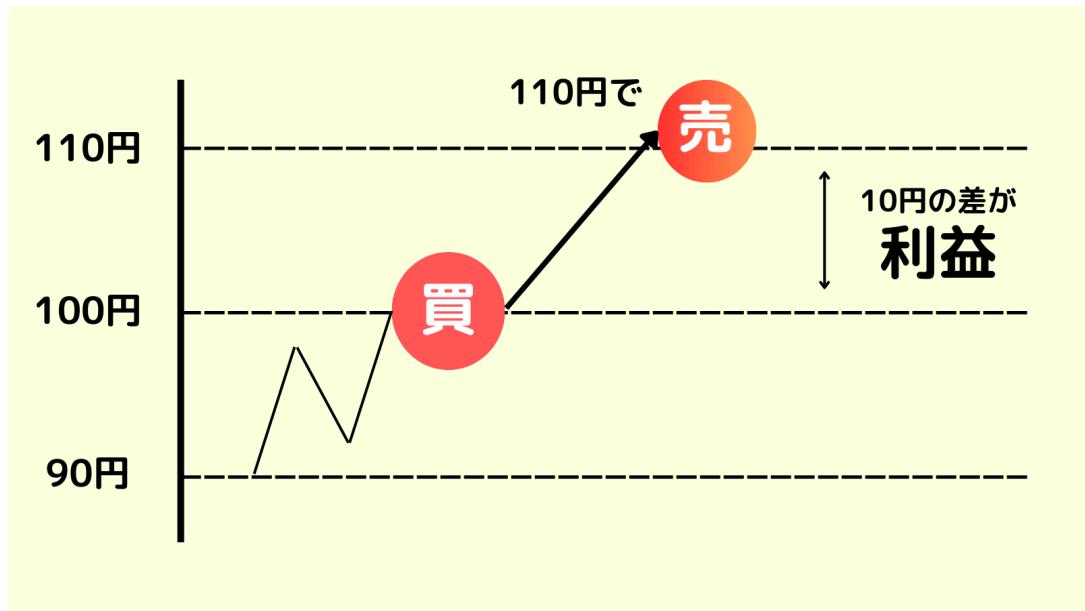
FXとは？

外国為替取引(FX)で利益が出る仕組みを初心者向けに説明しますね。

FXは、異なる通貨同士の交換を行う市場です。例えば、日本円を米ドルに交換するなどがその一例です。

利益を得る仕組みは主に「為替レートの変動を利用する」ことです。為替レートとは、1つの通貨を別の通貨で買う際の価格です。この為替レートは常に変動しており、その差額を利用して利益を得ることができます。

例えば、あなたが米ドルを買い、日本円を売るします。その時の為替レートが1米ドル=100円だとします。つまり、1米ドルを100円で購入することができます。もしも後で為替レートが1米ドル=110円になった場合、あなたが持っている1米ドルを売却すると、1ドルあたり10円の利益が出ます。



このように、為替相場の変動を予測し、その変動によって利益を得ることがFX取引の基本です。ただし、為替相場は予測が難しい場合も多いので、十分な知識や経験が必要です。また、取引にはリスクも伴いますので、資金管理やリスク管理も重要です。

初心者の場合は、デモトレードなどで経験を積みながら学んでいくことをお勧めします。

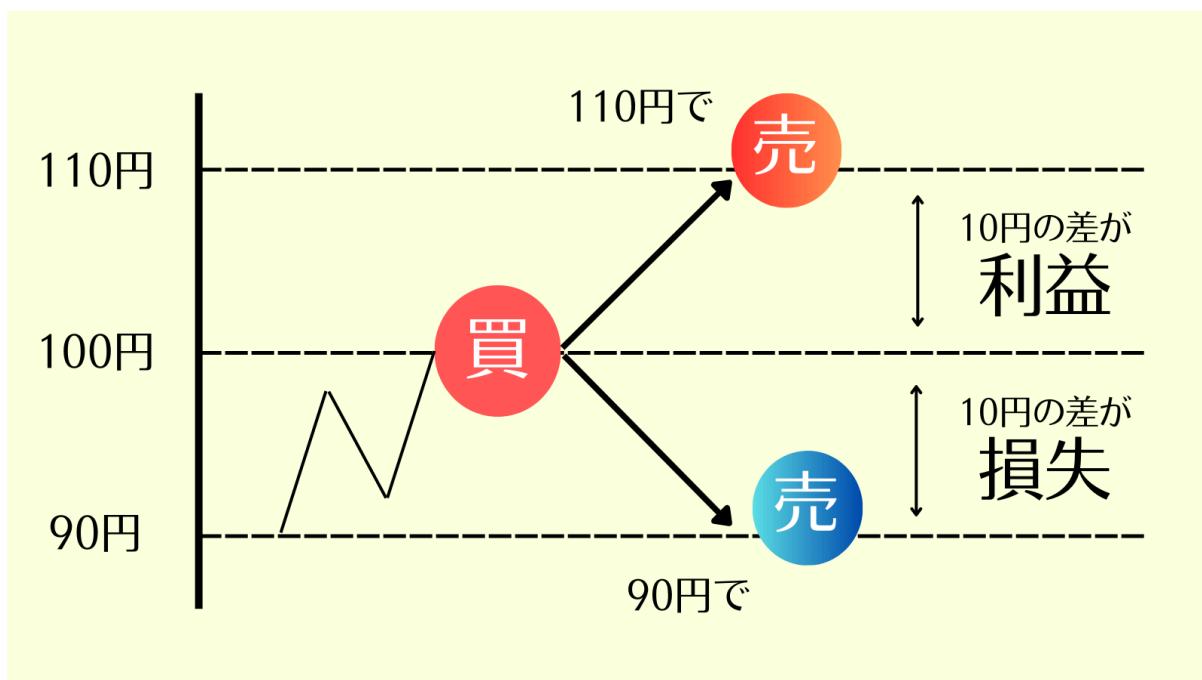
FXと外貨預金の違い

FXと外貨預金は、両者とも外国通貨を利用する点で共通していますが、その性質や運用方法には大きな違いがあります。以下にそれぞれの特徴を詳しく説明し、具体的な例を交えながら比較してみましょう。

FX(外国為替取引)

性質: FXは、通貨同士の価格差を利用して利益を得る投資商品です。投資家は通貨ペア(例えば、USD/JPYなど)の価格変動を予測し、それに応じて売買を行います。
リスクとリターン: FX取引は投資商品の中でも高いリスクを伴います。価格変動が大きく、短期間で大きな利益を得ることも可能ですが、同時に大きな損失を被る可能性もあります。

例: たとえば、あなたが米ドルを日本円で買い、価格が上昇した場合、売却することで利益を得ることができます。例えば、1ドル=100円で購入し、後で1ドル=110円で売却すると、1ドルあたり10円の利益が得られます。



外貨預金

性質: 外貨預金は、銀行に外国通貨を預けることで利子を得る貯蓄商品です。外貨預金口座を開設することで、外国通貨を保管し、一定期間利子を受け取ることができます。

リスクとリターン: 外貨預金は比較的低リスクな投資です。通常、元本保証があり、利息を得ることができます。利回りは低く、為替リスクによって実際のリターンが変動することがあります。

例: たとえば、あなたが日本円を米ドルに交換し、米ドルを外貨預金に預けたとします。一定期間後に利子が付与され、元本と利子を合わせた金額が支払われます。ただし、為替レートの変動によって日本円換算の価値が変わることもあります。

比較すると、**FX**は価格変動によって利益を得る投資であり、リスクとリターンが高い一方、外貨預金は比較的安定した利息収入を得ることができるが、リターンは低めです。初心者の場合、リスクを十分に理解した上で、自身の投資目的やリスク許容度に合った選択をすることが重要です。

円安と円高

円安と円高は、日本円の価値が他の通貨に対してどのように変動するかを表す言葉です。以下にそれぞれの概念を具体的な例を交えながら説明します。

円安とは？

概要: 円安とは、日本円の価値が他の通貨に対して下落することを意味します。つまり、他の通貨（例えば米ドルやユーロなど）が日本円に対して相対的に高くなる状況です。

影響: 円安の場合、日本円を持っている人は他の通貨に対して日本円が減少しているため、外国製品や海外旅行などをする際に高い費用がかかることがあります。

例: たとえば、1米ドル=100円の為替レートが円安になり、1米ドル=110円になったとします。この場合、日本円の価値が下落し、1米ドルを購入するためにより多くの日本円が必要となります。

円安

輸入



仕入れ価格が上がり
食品やエネルギー資源が高騰

輸出



同じ販売価格でも多くの利益が得られる
海外市場での競争力が上がる

円高とは？

概要: 円高とは、日本円の価値が他の通貨に対して上昇することを意味します。つまり、他の通貨が日本円に対して相対的に安くなる状況です。

影響: 円高の場合、日本円を持っている人は他の通貨に対して日本円が増加しているため、外国製品や海外旅行などをする際に費用が相対的に安くなります。

例: たとえば、1米ドル=100円の為替レートが円高になり、1米ドル=90円になったとします。この場合、日本円の価値が上昇し、1米ドルを購入するためにより少ない日本円が必要となります。

以上が円安と円高の概念です。為替相場はさまざまな要因によって影響を受けますが、国の経済状況や政治的な出来事、金融政策などが重要な要因となります。初心者の場合は、これらの要因を理解し、円安や円高がどのように自身の経済生活に影響を与えるかを考えることが重要です。

円高

輸入



海外製品や海外旅行の
価格が下がる

輸出



同じ販売価格だと利益が下がる
値上げにより販売力が落ちる

差金決済の仕組み

差金決済は、先物取引などの金融取引で利用される一種の決済方法です。具体的な仕組みを例を交えながら説明します。

差金決済の概要

差金決済は、取引開始時に証拠金(保証金)を預け、取引終了時にその差額を決済する方法です。

具体的には、取引開始時には実際の資金を全額預けるのではなく、一定の証拠金のみを預けます。取引終了時には、損益額が発生した場合にその差額を決済します。

差金決済の例

例えば、Aさんが商品の先物取引を行うことを考えます。Aさんは、商品の価格が上昇することを予測し、買いのポジションを取ることにしました。

Aさんが取引開始時に、証拠金として10万円を預けます。商品の価格が上昇した場合、Aさんは利益を得ることができます。

反対に、商品の価格が下落した場合、Aさんは損失を被ることになります。この場合、証拠金よりも大きな損失が発生する可能性があります。

取引終了時に、利益が出た場合はその差額を受け取り、損失が出た場合はその差額を支払います。

利用例

差金決済は主に先物取引やオプション取引などで利用されます。株式市場や商品市場などの価格変動に対するリスクヘッジや投資活動に役立ちます。

投資家は、自己資金のみを預けることで取引規模を拡大できるため、相対的に大きな取引が可能です。しかし、同時にリスクも大きくなることに留意する必要があります。

差金決済は、取引のリスク管理や効率的な資金利用を可能にする重要な手法の一つです。ただし、取引には十分な知識と経験が必要ですので、初心者の場合は十分な勉強とリスク管理が求められます。

レバレッジとは？

FXにおけるレバレッジとは、自己資金を担保にしてその何倍もの取引を行える仕組みです。つまり、少額の資金で大きな取引を行うことができるため、投資家にとって大きな利益を得るチャンスを提供しますが、同時に大きなリスクも伴います。

具体的な例を挙げて説明します：

レバレッジの計算：

例えば、1万ドルの自己資金を持っているとします。この自己資金を元に、100倍のレバレッジをかけることを考えます。

この場合、自己資金の1万ドルに対して、100倍のレバレッジをかけることで、100万ドル相当の取引を行うことができます。

レバレッジの利用：

たとえば、レバレッジを利用して1万ドル相当の取引を行ったとします。

もしも為替相場が有利に動き、1万ドルの自己資金に対して1%の利益が得られた場合、自己資金は100ドル増えます。

しかし、レバレッジをかけた取引では、実際の取引額は100倍の100万ドルですから、その1%の利益は100万ドルに対して1%の利益になります。つまり、1000ドルの利益を得ることができます。



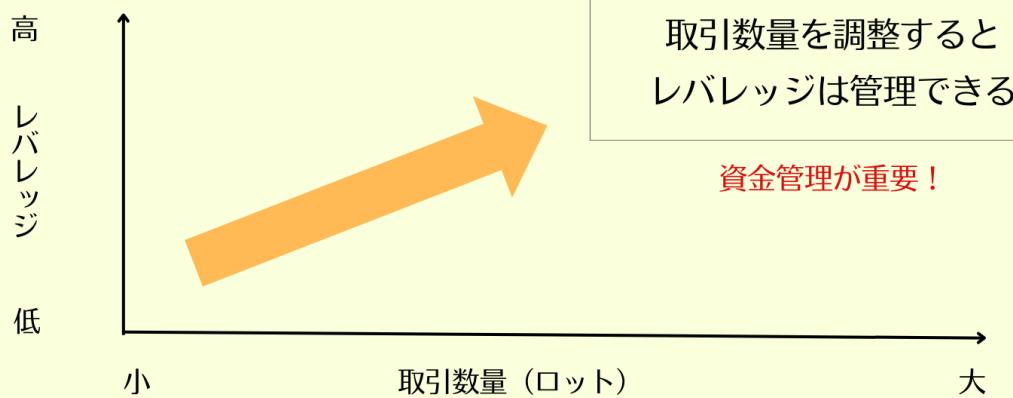
リスクの注意:

一方で、レバレッジをかけた取引ではリスクも大きくなります。

もしも為替相場が逆に動いて損失が発生した場合、その損失も自己資金の何倍もの額になる可能性があります。つまり、大きな損失を被るリスクも高まります。

レバレッジを利用することで、少額の自己資金で大きな取引を行えるため、投資家にとっては利益を大きくする機会を提供します。しかし、同時にリスクも高まるため、リスク管理を徹底し、慎重に取引を行うことが重要です。初心者の場合は、リスクを理解し、デモトレードなどで経験を積みながら、レバレッジの適切な活用方法を学ぶことが重要です。

レバレッジって危ないんじゃないの？



取引数量とロット

FX取引において、取引数量とロットの関係性は重要です。一般的に、FX取引では通貨ペアの数量を基準通貨で表します。1ロットは通常、100,000通貨の数量を意味します。

例えば、米ドル/円(USD/JPY)の取引を考えてみましょう。現在のUSD/JPYの為替レートが110円とします。

1ロットの場合:

取引数量: 100,000通貨

取引額: $100,000 \text{通貨} \times 110 \text{円/通貨} = 11,000,000 \text{円}$

0.1ロットの場合:

取引数量: 10,000通貨

取引額: $10,000 \text{通貨} \times 110 \text{円/通貨} = 1,100,000 \text{円}$

0.01ロットの場合:

取引数量: 1,000通貨

取引額: $1,000 \text{通貨} \times 110 \text{円/通貨} = 110,000 \text{円}$

取引数量が少ないほど、取引額も少なくなります。ロット数が減るとリスクも減りますが、同時に利益も減少する可能性があります。取引量やリスク管理の観点から、トレーダーは自身の取引戦略やリスク許容度に基づいて、適切なロットサイズを選択する必要があります。

1ロットって何円？

1ロット



1米ドル=100円の場合



1万通貨



100万円 (1万米ドル×100円)

1千通貨



10万円 (1千米ドル×100円)

この通貨は、1枚などの単位と同じ！
取引する通貨のこと

※取引通貨の単位は
FX会社によって異なります

FXの取引時間

FX取引市場は世界中で24時間開かれていますが、取引時間帯によって市場の特徴や動きが異なります。以下にそれぞれの取引時間帯の特徴を述べながら具体的な例を挙げます。

アジア市場(東京、シンガポール、香港など)

特徴:アジア市場はFX取引のスタート地点として知られており、取引量は他の市場に比べて比較的低い傾向があります。ただし、東京市場のオープン時には一定の取引活動が見られます。

具体的な例:日本時間の午前9時ごろ、東京市場がオープンし、USD/JPYなどのペアで取引が活発になります。

ヨーロッパ市場(ロンドン、フランクフルト、パリなど)

特徴:ヨーロッパ市場はFX取引の中心地の1つであり、世界最大の取引量が発生します。ロンドン市場のオープンからクローズまでが最も活発な時間帯とされています。

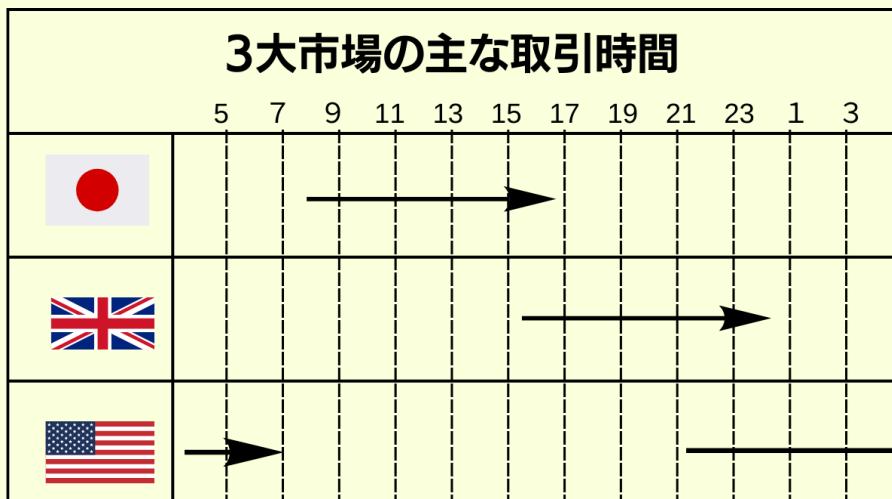
具体的な例:英国時間の午前8時ごろ、ロンドン市場がオープンし、EUR/USD、GBP/USDなどの主要通貨ペアで活発な取引が行われます。

北米市場(ニューヨーク)

特徴:北米市場はヨーロッパ市場の後に続く重要な取引時間帯です。特にニューヨーク市場のオープンからクローズまでが重要視されます。

具体的な例:米国東部時間の午前8時ごろ、ニューヨーク市場がオープンし、USD/JPY、USD/CADなどのペアで活発な取引が行われます。

各市場のオープンやクローズに伴う取引時間帯の変化により、価格の変動や取引の活発さが変わります。トレーダーはこれらの時間帯を考慮して戦略を立て、市場の特性を活かして取引を行うことが重要です。



東京:8時~16時／ロンドン:16時~2時／NY:21時~6時

スプレッド(FXの手数料)

FX取引におけるスプレッドは、買いと売りの間の価格差を示します。これはブローカーが取引に対する手数料として受け取るものであり、通常、取引の際に支払うコストの一部となります。

具体的な例を挙げて説明します。

例えば、USD/JPYの現在の売り価格が110.00円、買い価格が110.05円だとします。

スプレッド: 買い価格(110.05円) - 売り価格(110.00円) = 0.05円

この場合、スプレッドは0.05円となります。これはトレーダーが取引を行う際にブローカーに支払う手数料の一部です。スプレッドが狭ければ狭いほど、取引コストが低くなります。

一般的に、主要通貨ペアや取引時間帯が活発なときにスプレッドが狭くなる傾向がありますが、取引量や市場の状況によって変動します。

トレーダーはスプレッドの大きさやブローカーの取引手数料などを考慮して取引を行い、コストを最小限に抑えながら利益を最大化することを目指します。

買値と売値の差=スプレッド

USD/JPY

ドル円を 売る時の値	売値 110.600	買値 110.602	ドル円を 買う時の値
---------------	---------------	---------------	---------------

この差がトレーダーの実質的なコストになる

スワップポイント

FX取引におけるスワップポイントは、通常、ポジションを保有したまま次の取引日に移行する際に発生する利息の差を示します。これは、異なる通貨ペアの金利水準の差によって決まります。一般的に、高金利通貨を保有している場合にはスワップポイントがプラスになり、低金利通貨を保有している場合にはマイナスになります。

具体的な例を挙げて説明します。

例えば、トレーダーが次の取引を行なうとします。

通貨ペア: AUD/USD

取引量: 1ロット(100,000通貨)

買いポジションを保有している

AUDの金利: 1.5%

USDの金利: 0.25%

この場合、AUDの金利がUSDの金利よりも高いため、トレーダーはスワップポイントを受け取ることになります。

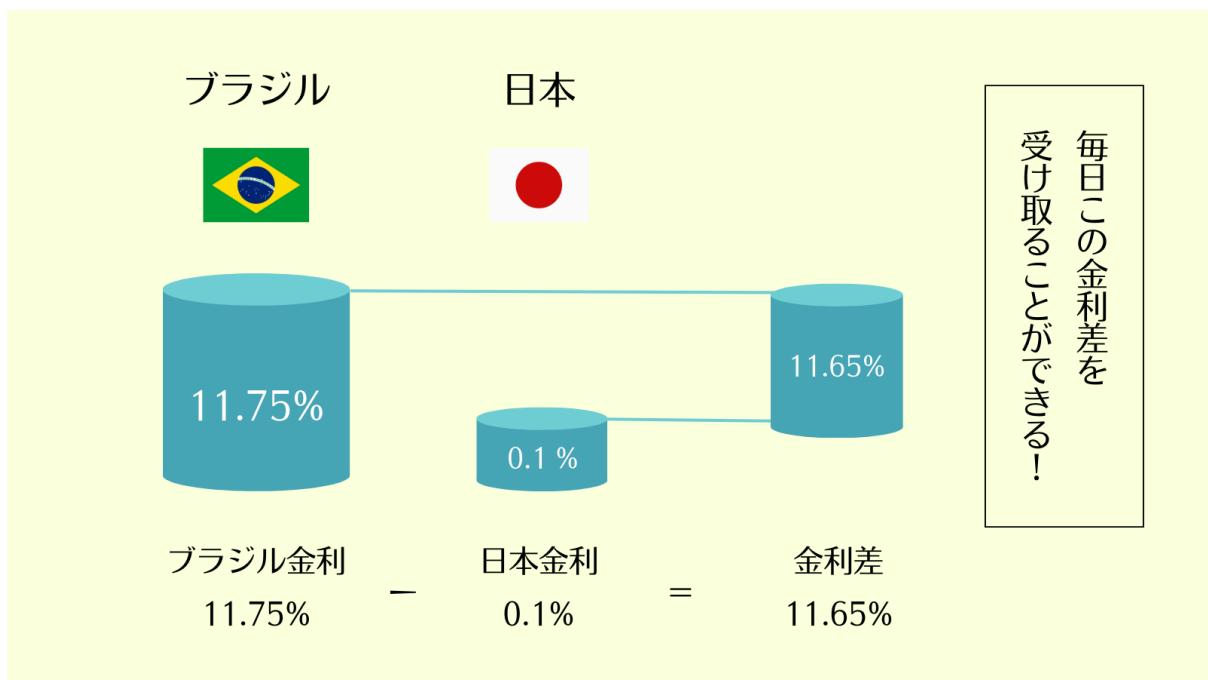
ポジションを保有したまま翌日に移行する場合:

AUDの金利からUSDの金利を差し引いた差額がトレーダーの受け取るスワップポイントとなります。

$(1.5\% - 0.25\%) \times \text{取引数量}(100,000\text{通貨}) \div 365(\text{1年を日数で割る}) = \text{受け取るスワップポイント}$

この計算により、トレーダーがポジションを保有したまま次の取引日に移行する際に受け取るスワップポイントが計算されます。もしAUDの金利がUSDの金利よりも低ければ、トレーダーは支払うことになります。

スワップポイントは通常、ポジションを保有している間に自動的に加算または減算され、トレーダーの口座に反映されます。



FXのリスク

FX取引にはさまざまなものリスクが存在します。以下にいくつかの具体的な例を挙げて説明します。

市場リスク(価格変動リスク):

例: あるトレーダーがUSD/JPYの買いポジションを持っているとします。その後、米国の経済指標が予想外の結果を示し、ドルの価値が急落する可能性があります。この場合、USD/JPYの価格が急落し、トレーダーのポジションが損失を出す可能性があります。

説明: 市場リスクは外部要因によって生じるリスクであり、為替相場の変動によってポジションの価値が変化します。政治的な出来事や経済指標の発表など、さまざまな要因が価格変動に影響を与える可能性があります。

レバレッジリスク:

例: トレーダーがレバレッジを利用して取引を行い、大きなポジションを持っている場合、小さな価格変動でも大きな損失を被る可能性があります。たとえば、1:100のレバ

レバッジを利用して100,000通貨のポジションを持っている場合、1%の価格変動は実際の投資額の100%に相当します。

説明: レバレッジを利用することで、投資家は少額の証拠金で大きなポジションを取ることができます。同時に大きなリスクも伴います。価格の小さな変動でも損失が大きくなるため、レバレッジ取引は十分な注意が必要です。

金利リスク:

例: トレーダーが通貨ペアを保有している場合、それぞれの通貨の金利差によってスワップポイント(金利差)が発生します。金利が変動すると、スワップポイントも変化します。

説明: 金利リスクは、通貨の金利水準の変動によって生じるリスクです。金利が上昇すると、高金利通貨を保有しているトレーダーは利益を得ることができます。金利が下がると損失を被る可能性があります。

これらのリスクは、トレーダーがFX取引を行う際に十分に理解しておく必要があります。リスク管理戦略の策定や損失を最小限に抑えるための対策が重要です。

